【令和８年度　区長答申・区民評価委員会と区長との意見交換会】会議概要

会　議　名	令和８年度　区長答申・区民評価委員会と区長との意見交換会		
事　務　局	政策経営部政策経営課		
開催年月日	令和８年９月３日（木）		
開催時間	午前９時２９分　～　午前１０時３４分		
開催場所	足立区役所南館８階　庁議室		
出　席　者	藤後　悦子　会長	荻原　雅史　副会長	桑原　千明　委員
	石田　三成　委員	清水　潤子　委員	中村　重男　委員
	野本　愛　委員	丸山　順一　委員	柳原 由美子　委員
	渡辺 大介　委員	島田　将輝　委員	田中　千裕　委員
	谷　まどか　委員	野倉　優紀　委員	松原　博　委員
	虎岩　太朗　委員		
欠　席　者	小泉　友恵　委員		
会議次第	別紙のとおり		
資　料	資料１　　令和８年度足立区区民評価委員会委員名簿		
その他			

○鈴木政策経営課長　区民評価委員の皆様におかれましては、ご多忙のところをお集まりいただき、ありがとうございます。

本日の進行を務めさせていただきます政策経営課長の鈴木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ただいまより、令和８年度足立区区民評価委員会によります区長からの諮問事項に対する答申を行います。

藤後会長と区長はご移動ください。

それでは、藤後会長から報告書の提出をお願いいたします。

（藤後会長から区長へ区民評価委員会活動報告書を手交）

○鈴木政策経営課長　それでは、藤後会長と区長は席にお戻りください。

それでは、藤後会長より評価結果の概要につきましてご説明をお願いいたします。必要に応じて分科会長の皆様からも補足をお願いいたします。

○藤後会長　では、活動報告書に沿ってお話をさせていただきたいと思います。

まず初めに 12 ページをご覧いただければと思います。こちらに令和８年度の評価結果の概要が書かれておりますので、12 ページをお開きください。

見てのとおり、令和８年度は軒並み昨年度に比べると高い評価になっております。特に反映結果が軒並み高くなっておりますので、ご報告させていただきたいと思います。

では、続きまして各分科会の概要を簡単に説明させていただきます。

14 ページをお開きください。「ひとと行財政」分科会についてです。７事業の評価を行っていただいております。全体評価を見ていただければと思いますが、大体 3.5～４の間の評価になっており、平均値は 3.79 になってございます。

では、続いて 18 ページをご覧ください。「ひとと行財政」分科会の中で評価が高かった事業としましては、15 番の「不登校児童・生徒に対する支援事業」が挙げられております。

19 ページに移ります。「ひとと行財政」分科会からの提言としましては、大きく３つございます。

今回の評価の内容も含めてここの提言にまとめておられますので、お読みいただければと思いますが、まず１点目、「必要としている区民へ、行き届く支援を目指して」ということで、本分科会の対象事業は、区の目指す切れ目ない支援に向けて、段階的もしくは網羅的に多くの取組を設計されていました。一方で、利用者の声を聞き取る取組は進められているものの、本来支援を必要としているにもかかわらず利用に至っていない者の声が把握できているかについては、なお検討の余地があるという結果になっております。

提言２つ目、「連携や『協働・協創』の可能性を活用した支援を目指して」ということで、多くの事業で連携や協働・協創を意識した取組が見られたということは高く評価できます。一方で、評価活動における調書やプレゼンテーション資料は各担当所管の努力の結晶であったのですけれども、ほかの課であったり、ほかの所管とどれくらい共有されているのかというような点が課題として挙がっております。

もう一つの課題としましては、推進力の高さゆえに、結果的に事業内で取組が重複してしまっている点です。重複しているからこそ、それが複雑化してしまっていて、しっかりした支援に行き届いていない可能性もあるということが指摘されております。

３つ目、「円滑な評価活動を目指して」という点で、評価の基準や評価内容に際して、注目点や確認点が評価委員と担当部署との間で共通理解がどれくらい得られているのかについて疑問として挙がっていましたので、引き続きご検討いただければと思います。

では、続いて 22 ページをお開きください。「くらしと行財政」分科会についてです。「くらしと行財政」分科会は６事業の評価を行っていただき

ました。全体評価を見ていただければと思いますが、３がありません。3.5 から 4.5 までとなっており、平均点は 3.92 となっております。こちらは３分科会の中で最も高かったと位置づけられています。

では、少し飛ばしまして、27 ページです。こちらの分科会で評価が高かった事業としましては、１つ目には、「№17　重層的支援体制整備事業」、２つ目には、「№20　ごみの減量・資源化の推進」が挙げられております。

次に、28 ページです。評価が低かったというか、今後に期待したい事業としては、「№18　健康寿命を延ばす介護予防・認知症予防事業」、そして「№19　エネルギー対策の推進」、それと 30 ページ、「№10　ビューティフル・ウィンドウズ事業」が挙げられております。

「くらしと行財政」分科会からの提言としましては、こちらも３つございます。

まず１点目は「事業改善につながるデータ収集・分析・活用の推進」についてです。事業の実施状況や成果を把握するために必要なデータを継続的に収集して、それを分析し事業改善に活用していることは大変評価できます。

一方、既存の評価指標に基づく数値だけではなく、事業対象者の利用状況や継続状況、行動の変化や実際の声などをもう少し詳細に情報として把握していく必要があるのではないかということが挙げられています。

また、得た情報に関して、委託事業者、民間企業、地域団体等が事業に関わるときには、必要なデータをどれくらい共有できるのかという点も検討していただければと思います。

２つ目、「ＤＸ・ＡＩを活用した庁内横断的な協創・連携の推進」についてです。本年度の区民評価は、行政手続のオンライン化、行政内の生成ＡＩポータルの構築、ＳＮＳの配信分析、オンライン相談というように、複数の事業でＡＩやＤＸを活用した取組が示されました。これはすばらしいことだと思います。

今後は、各部署が個別にＡＩやＤＸを導入するだけではなく、活用上の課題、成功事例、業務改善の効果等を庁内で共有していくこと、他部署が応用できる仕組みを構築していくことが求められるということを提言として挙げさせていただいております。

そして３つ目、「行動変容・定着を捉える評価への発展」ということです。今年度の評価対象の事業でも、講座、イベント、情報発信、相談対応、補助制度など、多様な活動が着実に実施されておりました。ですが、その実施されていたことが結果としてどれくらい行動に結びついているのか、行動変容に結びついているのかということがまだ明らかではないですので、そこも追跡調査として、しっかり把握していただければと思っております。

３つ目、33 ページです。「まちと行財政」分科会についてのご報告となります。こちらは全体評価、７事業をさせていただいており、全体評価の平均点は３～４で、上限が４であったということです。平均値は 3.43 でございました。

ページを少し飛ばせていただいて、36 ページに移ります。評価が高かった事業としましては、「№９　揺れに強い建物の促進」、そして「№４シティプロモーション事業」などが挙げられており、評価が少し低かったものとしましては、38 ページ、「№２　持続可能な移動手段の確保」などが挙げられております。

こちらの分科会からの提言に関しましては、３つございます。

１つ目は「『足立区らしさ』を生かした施策の推進」ということで、既にいろいろな施策をなされているのですけれども、他の自治体とも少し類似の点があるということで、せっかくですので、しっかりと「足立区らしさ」というものをもっと前面に打ち出していってもよいのではないかということです。

２つ目、「『利用してもらうこと』を前提とした制度設計への転換」ということです。多くの事業で助成制度の拡充や制度延長など、伴走型の支援へ転換してくださっています。しかしながら、申請件数や利用件数が目標に達していない事業などがあるということは、制度を知らない・利用されない要因というものは、申請手続の煩雑さであったり、その周知方法、相談の受けやすさなどに課題があるように思われますので、こちらに関してもぜひ引き続き改善をお願いしたいと思います。

３つ目、「施策全体を見据えた事業展開と成果のみえる化」ということです。こちらも課題分析も含めてしっかり推進、改善されていることは理解しております。

しかしながら、区政全体に対する区民の満足度を最終指標とした場合に、具体的にどのようなことが満足度につながっているのかという要因分析をやっていただくと、より介入しやすいということにもつながっていきますので、ご検討いただければと思います。

引き続き、ページが飛びます。84 ページに移りたいと思います。一般事務事業の評価内容です。一般事務事業に関しましては、７つの事業を評価させていただいております。

その中で、88 ページ、89 ページをご覧いただければと思いますが、事業評価に関しましては、先ほどの分科会とは少し違う評価の仕方をしておりますが、ＣからＢでＡが少し入っているというような状況になっております。

委員から共通して指摘されたこととしましては４点挙がっております。

１点目、「活動指標・成果指標と効果検証の一層の充実」、２つ目、「中長期的な視点に基づく事業運営」、３つ目、「比較や根拠に基づく説明の充実」、４つ目、「部局間及び関係機関との連携の実質化」が挙げられておりますので、こちらに関しても引き続きご検討いただければと思います。

最後ですけれども、表彰事業ということで、110 ページをご覧ください。

今年度も引き続き表彰をさせていただいております。今回は、「ひとと行財政」からは「№11 妊娠期から１歳半までの切れ目のないポピュレーションアプローチ」、「くらしと行財政」からは「№20　ごみの減量・資源化の推進」、「まちと行財政」からは「№７　地域と一体となった震災・水害対策」、そして最後に一般事務事業見直しからは「就学相談事業」が表彰として挙げられております。

最後に、私、巻頭言にも書かせていただきましたけれども、１年間通しまして本当に改善が見られていると思います。私も長く関わらせていただいていますけれども、区民評価そのものが改善し進化していると思います。特に政策経営課を中心とした事前準備にもかなり力を入れられており、所管の方々への説明の仕方、そして調書の書式の変更などが成果の反映というところにもつながっていったのではないかと思っております。

以上でご報告とさせていただきます。ありがとうございます。

○鈴木政策経営課長　藤後会長、ありがとうございました。

それでは、次に移らせていただきます。ここからは区民評価委員会と区長との意見交換会に入ります。

本日は、区民評価委員の皆様が今年度の評価活動を通じて感じたことやご意見などをお聞きしたいとの趣旨から開催させていただくものでございます。忌憚のないご意見を賜りますよう、お願いいたします。

では、初めに、今年度の評価活動に対しまして区長よりご挨拶申し上げます。

○近藤区長　おはようございます。

１年間大変お世話になりました。ありがとうございました。今、藤後会長からのまとめのご挨拶

を伺いながら、日頃私が様々な職員といろいろヒアリングをする中で感じていることを的確に今まとめていただいて、課題がいよいよ浮かび上がってきたかなと思っております。

一方、毎年秋に行っております、区民3,000人を対象にした世論調査の結果、昨年の秋には区政満足度が初めて８割を超えた。そしてまた、令和５年を境にいたしまして、今、足立区の日本人の20代、30代の人口が転入超過に転じております。０歳の新生児の数も増えてきているということでございますので、何がポイントとなって足立区を選んでいただいて転入していただいているのかということ、アンケートを取りまして、さらに必要な施策を打っていくわけでございますけれども、この間、４つのボトルネック的課題の解消からスタートして、シティプロモーションを行いながら、徐々にではあっても足立区のイメージ転換が図られ、そして足立区のよさというものが認められつつあるのかなと思っております。

ただ、そういったことは、例えばまちが目に見えて変わってきたとか、大学が来たとか、大学病院が開設したとか、様々な変化がございますけれども、そういった目に見える分かりやすい変化だけでなくて、こうした皆様方に毎年ご苦労いただいております区民評価、これも全国の自治体でこのような形でやっているところというのは、私はあまり認識しておりません。以前にもお話ししましたけれども、事業仕分けというのが一時はやりましたけれども、それも一挙に廃れてしまいまして、正直、一時期は職員のほうからも、非常に準備に手間がかかるというようなこともあって、そろそろ廃止もいいんではないかというような声が出たこともありますが、これはやはり一番区民の皆さん方に参加していただいて、区政に関心を持っていただいて、区民目線で区政を変えていくという足立区の姿勢を示す非常に重要な事業だと思っておりますので、これからも着実に続けていきたいと思っております。

そしてまた、藤後先生のお話にもございましたとおり、大分職員もプレゼンも含めて説明するノウハウ、技術であったり、また意欲であったりということが高まってきているというような、そんなうれしい変化もございましたので、これからも皆様方のご意見を体して、さらに９年度の中でブラッシュアップしていけるように努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

○鈴木政策経営課長　それでは、早速、意見交換会を始めさせていただきます。

本日は、小泉委員は欠席のご連絡があり、16名の委員の皆様にお越しいただいております。

それでは、評価活動を通じての感想ということで、委員の皆様お一人ずつご意見、ご感想を頂ければと思っております。

ご発言の際にはマイクのボタンを押していただき、発言が終わりましたら再度ボタンを押してください。

次に、発言の順番でございます。お手元席次表の順でお話をお願いします。「ひとと行財政」分科会から「くらしと行財政」分科会と、分科会ごとに席順でお話しいただき、最後に藤後会長からご感想を頂きたいと思います。

それでは、恐れ入りますが、ご発言の前にはお名前をおっしゃっていただいてから、お一人１分程度でお話しいただければと思います。

それでは、柳原委員からお願いいたします。

○柳原委員　「ひとと行財政」を担当しました柳原と申します。よろしくお願いいたします。

私の場合は２年間、昨年は「くらし」のほうを担当させていただいて、今年は「ひとと行財政」のほうを担当させていただきました。２年間本当に貴重な体験をさせていただいて、ありがたいなという気持ちでいっぱいです。

その中で、短く話させていただきたいと思うのですけれども、評価委員でありながら、評価することがすごく目的になってしまっていて、ただ、

それが本当に全てじゃないなということをすごく感じたのですけれども、改善を求めたとしても、それが実際の事業や予算とかに反映されているかとか、あと区民の暮らしがどう変わったとか、その辺が見えないと最終的な目的ではないかなということをすごく感じました。

行政の評価は、目標を達成したかということではなくて、事業によって誰の暮らしがよくなったか、そういったことが的確に分かるようになるとすごくいいなと思いながらやらせていただきました。

そして、事業を続けることが正解ではなくて、やっぱり限られた財源なので、その中から、何を始めるかだけではなくて、何をやめるかというのもすごく大事だなということを感じました。幾つかやっていると、どうしても重複しているものがあったりとか、「あれっ、これ、前にも考えたな」と思ったことがあったりしたことがあったので、その辺の整理というか、その辺も必要かなということを感じました。そういった評価をぜひこれから区政の変える力にしていただければありがたいなと思いました。私はもう足立区は 20 年ぐらいいますけれども、区民の立場から評価に携わった者として心からそういった気持ちで今おります。

ありがとうございました。

○鈴木政策経営課長　ありがとうございました。

続きまして、虎岩委員、お願いいたします。

○虎岩委員　同じく「ひとと行財政」分科会の虎岩です。よろしくお願いします。

私は今年初めて評価委員を務めさせていただきまして、最初はすごくやる気を持って立候補させていただいたのですけれども、何をするかというところは最初右も左も分からない状況でした。しかし、評価活動自体も年々ブラッシュアップされているということを聞きまして、最初に受けた研修の内容も、柳原様と一緒に受けましたけれども、前よりもより分かりやすいものになっているということであったり、あと、事務局の皆様にサポートしていただいたことによって、結果的には大きな不安もなく最終的な評価活動を終えるところまでできました。ありがとうございました。

実際に関わってみたプロジェクトというのは重点プロジェクトだったと思うのですけれども、それぞれ目標だったり目的というものがある中で、その取組を知った上で評価に関わるということ自体が、まず私にとってはとてもよい経験でした。初めての評価委員だったということもあったのかと思うのですけれども、プロジェクトの評価をする際に私がした質問とかというのがどういうものが多かったかを振り返ったときに、そもそも例えば多様な体験だったりとか、多様な世帯に向けてというような目標や目的があったときに、それ自体は具体的にはどういうものを想定しているのかとか、一番理想とするところは、最終的なゴールというか、どういう人たちがどう助かるのがこのプロジェクトにとっての一番の理想はなんですかという質問をすることが私自身は結構多かったんですね。なので、そういったところも今後のプレゼンテーションというか、一番そもそもの重点プロジェクト自体の――もちろん皆さんはそれを念頭に置いた上で取り組まれていると思うのですけれども、それに対してもっと強いメッセージみたいなものを頂きながら評価活動に臨めると、よりまたよくなっていくのかなと感じていました。

私自身、ふだん足立区で働いているのですけれども、今回の経験を通して、これまで以上に区の行っている取組というのにもっと目を向けていきたいなと思いましたし、今回は評価委員という立場ですけれども、それ以外でも自分ができることだったりとか、この区の取組にお手伝いできることがあったら頑張っていきたいなと思うことができました。

ありがとうございました。

○鈴木政策経営課長　虎岩委員、ありがとうござ

いました。

続きまして、桑原先生、お願いいたします。

○桑原委員　「ひとと行財政」分科会を担当させていただきました桑原です。よろしくお願いします。

この評価活動を通しまして、それぞれの取組に従事されている区職員の皆さんたちが、その取組に対してしっかりとした考えですとか熱意を持って取り組まれているということがすごく強く感じられまして、私たちの質問に対しても、こういう考えに基づいてこういうことをしていますというのを教えていただけたのはすごくありがたかったですし、また、それを事務局の皆さんにサポートしていただいて、スムーズに評価することができたかなと思います。

また、昨年度のこの会の中でしたか、前回の全体会の中でしたかは忘れてしまったのですけれども、この評価委員の位置づけそのものについて考える機会というのも自分自身も頂きまして、それに際して昨年 11 月にアンケートを実施していただいて、この評価委員会の位置づけとか特徴というものを明確にした上で今年度臨めたというのはすごくありがたかったなと思います。提言にも書かせていただいたのですけれども、それをどれくらい職員の皆様もご理解いただいているかということが、今後、こういうような評価をいただいて嫌な気持ちがしたとか、こちらも、こういうふうに言ってしまっていいんだろうかというように二の足を踏んでしまうということがなく、スムーズで円滑な評価が行えるのかなと考えました。

同時に、前回この評価委員の全体会の中で、これだけＡＩ等も進んでいる中で、人が集まって評価することの意義について触れられていた委員の方がいて、この委員会の特徴の一つとして、人が集まるということがあると思いますので、その点についてもさらに考えていけるといいのかなと感じました。

以上です。ありがとうございました。

○鈴木政策経営課長　ありがとうございました。

続きまして、「くらしと行財政」分科会に入りまして、渡辺委員、お願いいたします。

○渡辺委員　「くらしと行財政」委員の渡辺大介です。よろしくお願いします。

今年度、一番よかったなと感じたのは、ＰＤＣＡサイクルの「Ｃ」の部分ですね、効果検証の部分をチームで意識してくださった点が多いという点です。具体的には、情報発信をして終わりではなくて、アクセス解析等の技術を通して、どれだけの方に届いたのかというところを確かめているチームが増えていると思いました。これは、視点を広げますと、職員個々の意識レベルでのＥＢＰＭ、つまりデータに基づいた政策を考えるという姿勢の一つだろうと思っております。この１年で大きく前進したと思っています。

一区民として、一年一年、とても改善しながら、見える部分だけじゃなくて、本当に見えない部分なのですけれども、改善を重ねながら足立区は形づくられているなということを肌身で実感できましたし、そのことを非常に喜ばしく思っております。

以上です。ありがとうございました。

○鈴木政策経営課長　ありがとうございました。

続きまして、中村委員、お願いいたします。

○中村委員　中村です。「くらし」の分科会を４年間務めさせていただきました。

この４年間の評価の委員としての経験を踏まえて、今若干危惧している部分があります。それは区民評価委員会の形骸化ということです。この形骸化、いわゆるセレモニー化を防ぐための方策として、私の個人的な考え方をお伝えしたいなと思っています。

第１に、重プロ評価調書の内容に沿った形で区民評価委員会という事業を政策経営部自ら過去数年間を総括、評価していただいて、その中で課題、改善点を洗い出していただきたいということ

が第１点。

第２点で、昨年、区民評価委員のレベルを上げてくださいということで事務局にお願いしまして、一部研修内容の改善に取り組んでいただきました。今年はさらに一歩踏み込んで、評価委員会の運営主体、すなわち政策経営部事務局のレベルアップをお願いしたいというふうに思っています。事務局は重プロ事業の内容を十分に知っておくということは当然のこととしまして、過去の評価経緯あるいは課題を十分理解して、区民評価委員への研修を行っていただきたいと思います。委員会のスケジュール管理、それから会議の設営など、事務局の重要な役割ではありますけれども、それに加えて、評価委員の能力を引き出すための教育・研修を行うことも事務局の大きな役割だと認識しております。

第３点目ですけれども、評価委員会が評価した重プロ事業担当所管部による区民評価委員会に対する評価、逆評価をしていただきたいなと思います。要は、評価されている側の現場の声を聞いて、評価委員会の今後の運営にぜひ生かしていただきたいなと思っています。運営する側の自己満足から脱却して、重プロ事業所管部の満足、それから評価委員の満足、そして何よりも区民の満足度の向上に結びつくような評価委員会を目指してほしいと思っております。

今後とも評価委員会が区民の暮らしや行政サービスの向上に貢献できる活動を継続していくよう期待しております。

以上でございます。

○鈴木政策経営課長　ありがとうございます。

続きまして、田中委員、お願いいたします。

○田中委員　「くらし」分科会を担当させていただきました田中と申します。よろしくお願いいたします。

私は１年目の評価委員だったのですけれども、今回務めさせていただきまして、ふだん生活しているだけでは知ることができなかった区の様々な取組や、またその裏にある職員の皆様の思いを知ることができました。評価する立場になって初めて行政のお仕事の難しさ、あと一つ一つの事業に多くの工夫が重ねられているということも感じることができました。

一方で、長く足立区で生活しておりますが、こんなにいい取組があるのに私自身は知らなかったと感じることも何度かありまして、せっかくのよい取組だからこそ、何をするのかという視点にプラスして、誰にどういうふうに届けていくのかということもとても重要なことではないかなと感じております。行政の取組と区民の声や暮らしの感覚、その両方を知って、つなぐことができるのが区民評価委員の大切な役割ではないかなと感じております。

今回得た視点をこれからも大切にして、区政や地域に関心を持ちながら、私にできる関わり方で引き続き務めさせていただけたらと思います。貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

○鈴木政策経営課長　ありがとうございました。

続きまして、清水先生、お願いいたします。

○清水委員　「くらしと行財政」分科会を担当させていただきました清水です。よろしくお願いいたします。

私も今年度で２年目、担当させていただきまして、評価対象事業が完全に一致はしていないので、単純比較は難しいのですけれども、２年間担当させていただく中で、先ほども話がありましたとおり、提言内容を反映していただき、またプレゼンの質の向上というところも認めることができまして、すごく区民評価が充実してきているのではないかなと思っております。

また、先ほど渡辺委員からもありましたが、特に今年度はリアルタイムでＳＮＳやホームページのアクセス解析をしながら、日々の業務の判断に役立てられている事業が見受けられたということはすばらしかったなと思っております。

今後この評価活動をよりよくしていくために

というところで、今回重点課題として挙げられているものは全てどれも難しく、すごく複雑なものが多いかなと思いますので、実際の事業運営も一筋縄にいくものではないですし、また、評価というと、やはりネガティブなイメージを特に事業をやられている皆さんは受けると思うので、すごく難しいものかと思うのですが、ゆえに区民評価があるんだなということを改めて今年度の取組を通して知ることができまして、調書の作成も大変だと思いますし、プレゼンの準備にもすごくお時間を要しているのではないかなと思うのですが、あの中に書いてある成果というものを日々意識しながら、皆さんが、この事業は何を目指しているのか、それを一緒に区民と確認するというプロセスがこの区民評価にすごく根づいていると思いますし、これからもそのマインドセットを大事に続けていけたらいいのではないかなと思っております。

また、こちらも確かにこの報告書を書くのはすごく時間がかかるのですけれども、ゆえにこの評価結果をぜひ活用していっていただきたいというところで、既に提言は反映していただいているのですが、このような形で成果が出ているものであったりとか、このような取組をしているということを、ぜひシティプロモーションの方々の協力も得ながら、さらに区民の方々に伝えていっていただきたいなと思っている所存です。

以上です。

○鈴木政策経営課長　ありがとうございます。

続きまして、「まちと行財政」分科会に入りまして、野本委員、お願いいたします。

○野本委員　「まちと行財政」分科会の野本と申します。よろしくお願いします。

私も２年目でして、昨年度から大分ロジックモデルとかも強化されて、改善されたなというところが、皆さんのコメントもありましたけれども、感じられたところでございます。

一方で、ロジックが強化されたからこそ、次のまた新たなフェーズといいますか、気になってしまうというところもありまして、今回は３つほど触れさせていただければと思うのですが、１つ目は、皆さんと共通するところもあるのですが、受益対象になる方の解像度をもうちょっと向上させるべきではないのかなというところです。

具体的には、私の「まちと行財政」を担当させていただいた中で言うと、交通弱者の定義ですとか、足立区独自の在宅避難想定数ですとか、エリアデザインにおける、エリアに住まう人たちがどんな方たちなのかといったところが結構具体的にヒアリングでも出たのですけれども、東京都の数値をそのまま使っていらっしゃるですとか、お聞きしてもなかなか的を射た回答を得られないということが実感としてありましたので、提言の中にもありました「足立区らしさ」というものを強化させるためにも、対象の方たちがどのような課題を抱えているのか。実際避難数とかはとても大事な数字だと思うのですけれども、足立区の避難所に何人の人が来て、在宅が想定される方は何名なのか、ここから始めないとなかなか施策も具体的にならないんじゃないかなと思った所存です。

２点目です。これも皆さんおっしゃっていますが、アウトプットからアウトカムといったところへの転換を触れさせていただきたいです。こちらも具体的には、「はるかぜ」というバスがあると思うのですけれども、これを維持するということを目標とされてロジックモデルを組まれていたのですけれども、持続可能な移動手段として「はるかぜ」を維持するということが本当にベストなのかみたいな、そういったそもそも論といったところに立ち返った議論、そういったところが少し伝わってこなかったところもありまして、施策からアウトプットだけじゃなくて、アウトカム、何をどうしたいのかといったところをもうちょっと議論を深めていただけると、もう少し区民の目線でも伝わりやすい議論になるのかなと思って

おります。

やはり情報整理とかロジックの構築というのはＡＩがとても得意な分野かなと思いますので、人間がこれを、施策をつくって展開するというところは、やはり定性的なアウトカムにまでこだわるからこそクリエイティブなものが生まれるのかなと思っておりますので、ぜひご検討いただければと思います。

最後に３点目なのですけれども、横串、面での全体最適というのと、あとは相関関係の把握といったところを挙げさせていただきます。今年、新しい重点プロジェクトとしてエリアデザインがありましたけれども、私、エリアデザインがある地域とない地域というのがあるというのもちょっと驚きだったのですけれども、エリアデザイン同士のコンセプト、テーマの連携ですとか、あとエリアデザインの対象内の地域と対象外の地域、例えばですけれども、私、江北地区なのですけれども、今、江北・高野地域ってホットだと思うのですけれども、じゃあ舎人公園のエリアというのは、そのお隣に江北があって、その隣にある舎人公園ってどういう位置づけなのというところとかがちょっと釈然としないといいますか、接続性がないなというふうにちょっとヒアリングの中では感じられてしまいましたので、少し残念だったなというところです。

あわせて、バスとかシェアサイクル、足立タクシーみたいなところのいろいろな施策があると思うのですけれども、移動手段間の相関関係ですとか、縦割りの点ではなくて、面として捉えるというのは必要かなと思いまして、どこかの利便性が上がればどこかが下がるというのももちろん考えられることだと思うのですけれども、そういった視点というのが欠如されていたかなと思いましたので、全体最適という視点での必要性を改めて触れさせていただきました。

駆け足になりましたけれども、今年も貴重な機会を頂きまして、ありがとうございました。

○鈴木政策経営課長　ありがとうございます。

続きまして、松原委員、お願いいたします。

○松原委員　松原でございます。今回初めて「まち」分科会を担当しました。

評価シートのまとめの過程で熊本地震があったり、千葉の内水氾濫の豪雨があったり、防災事業の重要性を改めて思い知らされたところです。その意味で、防災関連の部署、非常によくやっていらっしゃると思うのですけれども、その取組と成果、実際の実績を区内外の住民に積極的に知らせてほしいと。それをやっぱり関連部署も協力して注力していただきたいというふうに痛感しました。

それと、ちょっと話は変わりますけれども、最近出版された『散歩の達人』を読みながら今回の評価活動を考えてみました。千住だけに特化しない特集が組まれていました。非常によかったと思います。エリアデザインの事業を評価した後だけに、花畑とか綾瀬、北綾瀬とか、そういうエリアごとに特集を組まれていたのが、あっ、これはもしかしたら区の意向がすごく反映されたのかなというふうに思って、新鮮に感じられたということです。

ただ、１つ残念だったのは、読んでいて、足立の工芸品が、足立ブランド認定事業というのがあると思うのですけれども、それが反映されていないのかなと。農産物に関しては、区長の給食のインタビューもありましたけれども、「あだち菜」が結構ページを割いて紹介されていましたので、それに比較すると工芸品が少なかったのかなと思います。足立の職人が作る工芸品というのはシティプロモーションの重要なコンテンツだと思いますので、今後その辺のＰＲ・発信に力を入れていただきたいなと思いました。

雑誌を見ながら評価活動を考えたという、ちょっと場にそぐわないような考え方だったのですけれども、いろいろこの半年、ありがとうございました。

○鈴木政策経営課長　ありがとうございます。

続きまして、島田委員、お願いいたします。

○島田委員　１年目の島田です。

私は足立区に住んでもう 30 年ぐらいはたつのですけれども、私が子どもの頃に比べて足立区はかなり治安もよくなってきて、かなり住みやすいまちになってきているというのを年々感じていまして、それがこの重点プロジェクトだったり、各所管の業務、それからこの評価委員会の取組によるものだということを感じることができた非常に貴重な経験でした。

私、ふだんは会社員として民間企業に勤めているのですけれども、同僚には地方出身の方が結構多くて、雑談とかをするのですけれども、彼ら、彼女たちは足立区にそんなに悪い先入観を持っている方は少ないというか、あまり多くないのかなと思っています。それに加えて、数日前なのですけれども、待機児童数の報道があったと思うのですけれども、数が増えているのが、世田谷、足立、北区だったかと思うのですけれども、待機児童が増えていること自体は課題だとは思うのですけれども、見方を変えると、世田谷区とか、あと待機児童というワードがホットになった元となるのが多分横浜市だと思うのですけれども、そういった選ばれるまちにだんだんなってきているのかなと感じています。

今、シティプロモーションのほうで、メインで「ワケあり区、足立区。」とか、そういったキャッチフレーズで認知を広げる活動をされていて、それは引き続き進めていただきたいなとは思うのですけれども、そういった重点プロジェクトだったり所管の取組の賜物で待機児童が増えてきたり、転入超過したりとかしているかと思いますので、その素の足立区をどんどん押していってもいいのかなと。多分、中の人が思っているよりももっと外の人が、多くの人が足立区のことを知るというのは、中の人が思っているよりも、もっと踏み込むというか、力を入れないと多分広まっていかないかなと思いますので、もっと思ったよりもアクセルを踏んでいいんじゃないかなというふうにも思いました。また来年、委員会として関わらせていただくかと思いますので、そういった観点でも意見とかを出せたらいいなと思っています。

１年間ありがとうございました。

○鈴木政策経営課長　ありがとうございます。

続きまして、荻原先生、お願いいたします。

○荻原委員　本年度もどうもありがとうございました。

ほかの分科会のメンバーからおおむね言いたいことは言っていただいたので、そういうことなのですけれども、私からも一言だけお話しさせていただければと思います。

昨年度に比べて評価も非常に点数も上がって、非常にクオリティーが上がっているのかなと思います。一方、先ほど会長からもご説明があったように、最高点が４ということで、ある意味、レベルは上がっているのだけれども、突き抜けているものがないというのが少し「まち」の分科会の中の特徴なのかなと思っております。

特に、１つ事業として挙げさせていただくと、ほかの方からもありましたけれども、シティプロモーションというのがやはり一つのキーワードの事業なのかなと思っています。年々レベルも上がっていますし、やっていること自体も非常に評価しているのですが、全体の評価の数字をつけると、どうしても突き抜けないというか、選ばれるような事業まではなかなかいかないというような部分がございます。

今年、特徴的だったのが、一回我々、提言の下書きをさせていただいたのですけれども、その後、シティプロモーション課から、ここの言い回しはもう少し、こういうことなんですよみたいな補足のご説明をいただきました。それはすごく我々としても、プライドを持ってやられていて、よりそういうのを気にされて、伝えたいんだなというの

を非常に感じて、粋に感じた部分もありますし、一方、ほかの面で言うと、区民目線から言うと、我々が最初に書いたような提言のように思われているんだよというところもまた見ていただきたいところなのかなと思っておりまして、一定のレベルの水準はいっているのですけれども、さらにそこに満足せずに突き抜けていただきたいというのが、特にシティプロモーションの中では今後また期待するところでございます。

以上です。

○鈴木政策経営課長　ありがとうございます。

一般事務事業見直し分科会に入りまして、丸山委員、お願いいたします。

○丸山委員　「一般事務事業見直し」の丸山と申します。よろしくお願いします。

まず、区長のほうから一番初めに、こういった区民評価というのをやっているのが、ほかの市区町村ではあまりないというようなお話で、これにつきましてはすばらしい考え方だなと、私は去年を通じまして思いました。何がすばらしいかというと、私、こちらの区に来ましてまだ３年なのですけれども、区のことについて何も分からなかった。どんなことをやっているのかなとか、どういう区なのかなというのも分からず来てしまったのですけれども、こちらに来まして、こういう仕事に就かせていただきまして、やはり区のことが大変よく分かりました。区がどういうことをやっているのかとか、どれだけ職員の方が一生懸命やっているのかということを本当に肌で感じられまして、とても参考になりまして、見方が大変変わってまいりまして、足立区に住んでよかったなというふうに感想として持っています。

あと、多分、重点プロジェクトのほうではまた違った見方をするのでしょうけれども、一般事務事業ということでの見直しということで見ていますと、職員の方も大変プレゼンテーションも上手で、おっしゃっていることが大変よく分かったんですね。おおむね皆さん、一生懸命やっていらして、成果を上げようという努力をしていらっしゃるなというのは大変感じました。

私が見たのは、どれだけ熱意を持って皆さんがやっていらっしゃるのかなというところを基本的に見ていたんですね。そうしたところ、ほとんどの方たちは、質問を重ねていく中で、受け答えとかそういったものから、一生懸命やっていらっしゃるなというのは感じられたのですけれども、中には、大変難しい事業ですから、ちょっと無理だよとか、これはそう簡単にできないよとか、あと、これはもう何年もかかってしまうとか、そういう気持ちがどうしても先立つのか、今はここまでやっておかなきゃいけないとか、そういう認識が少し欠けているところがあったなという気がするんですね。

それであれば、私が思いましたのは、今担当していらっしゃる方たちというのが何年その部署にいるか分かりませんけれども、その中で自分ができるだけのことをやって、区のために事業をやるべきだというふうに感じたものですから、要は、その課、係の中で、これをやるために、長期かかるとしても、今やるところというのはどこまでやるかというのを、要するに脳みそを揺さぶってでも何とか事業を進めていこうというようなことを考えるべきだと思ったんですね。仕事だからやっているということではなくて、やはり区のために何とか力を貸して、一緒にやっていきたいという気持ちというのがもっと感じられていいんじゃないかなと思った事業がちょっとありました。そこはこれからも改善していただけるんだと思うのですけれども、私の感想としては、一番そこが思い当たったところです。

以上です。どうもありがとうございました。

○鈴木政策経営課長　ありがとうございます。

続きまして、谷委員、お願いいたします。

○谷委員　谷です。よろしくお願いいたします。

私からは、運営のところと、あとは個別見させていただいた事業のところの２点に分けてお話

ができたらと思うのですけれども、私も今年初めて委員を担当させていただきまして、非常に毎年ブラッシュアップがされているというところは皆さんのほうからも伺っていたのですけれども、これだけテーマも違う事業をいろいろと見ていくというところに当たって、私自身がもともと会社員として働く中で知見があるような事業もありましたし、そうでもない事業というのももちろんあったのですけれども、それでも、もちろん自分で調べたりとか、委員の皆さんも個別調べている部分というのもあったりすると思うのですけれども、自分が調べるという主体的なところと、あと職員の皆様のサポートでしっかり評価ができるというくらいまで知見を深められただったりとか、事業の内容を理解できたというところはすごくやりやすかったですし、非常に短い期間で評価とかもしていかなければいけないというところは大変ではあったのですけれども、とはいえ、長く設けるというのがいいというわけでもないと思うので、非常に適切な期間を設けて運営していただいたのかなというところで、本当にありがとうございました。

２点目の、各事業のところになのですけれども、本当に幅広いテーマを扱わせていただいたので、各事業に対して個別フィードバックはさせていただいているところではあるのですが、全体を通して、先ほど丸山さんのほうからもお話があったとおり、中長期的に取り組むべき課題なのに、今のところ目標はこれと設定されているみたいなことだったりとかというのが結構あるかなというところで、その事業の本来的な目的と、その事業の人たちが評価されるための目的というところにすごく大きく乖離があったりする部分というのもあったのかなと思っておりまして、そのあたりの最適化だったりとか、あとは、その事業にかかわらず、近しい部署との連携みたいなことをしていくことで、よりスムーズに、早く、少ない人員で事業を推進していけるというところもあるのかなと思ったので、そのあたりはぜひご検討いただきたいなと思ったのと、あと、すごく事業の内容を深掘りしていったときに、その内容を例えば区民の方に広報するとか伝えるとなったときに、どうしても納得感が得られないんじゃないかなと感じられるような内容も一部あったりはしたので、そのあたりは、今できないことというのももちろんあったりするとは思うのですけれども、そういうふうに説明をしたときに納得感が得られないんじゃないかなというふうに一区民の立場から感じられてしまうような点が発生しないように、中長期的な視点で事業の推進というところにも取り組んでいただいたほうがいいのかなと思いました。

本当に半年間、貴重な経験をさせていただいて、すごく勉強になりましたし、足立区の皆さんがこんなにいろいろな事業を推進してくださって、いいまちづくりに取り組んでくださっているんだなというところはすごくうれしかったですし、これからも住み続けていきたいなと感じました。

ありがとうございました。

○鈴木政策経営課長　ありがとうございました。

続きまして、野倉委員、お願いいたします。

○野倉委員　私も１年目で、担当させていただきました野倉と申します。

まず、私もコロナ前、2019 年頃にこちらのほうに転入してきまして、その当時から比べても、やはり周りの反応ですとか、足立区に住んでいることだったり、転入してくることに対してポジティブに捉えている同世代の声というのは前より聞くことが増えているなと思っていまして、ABEMA TV に出られたりですとか、いろいろ前例のないことも多分されていると思いますし、そういうことの積み重ねで評価というか、そういった印象を受けられているんじゃないかなと思いました。

今回の評価活動に関しては、区の職員、特に我々の分科会でいうと財政課の皆様が一番関わることが多かったのですけれども、やはり皆様の

努力がすごく見られる、随所に見られる分科会だったなと思っていまして、表彰を我々のほうで選ばせていただいている「就学相談事業」のほうですと、プレゼンテーションの中以外の質問に対しても真摯に向き合っておられたりですとか、活動目標に限らず、関連の領域についてもやはり学ばれていたりとか、情報収集されているというところが非常に意欲的だなと感じておりました。

今後に向けて私のほうから３点ございまして、答申の中でも記載いただいているところなのですけれども、どうしても行政のほうで予算を立てるときに単年度で予算を立てていくことになると思うのですけれども、足立区の中で包括予算ですかね、複数年にわたって考えられる予算組みというのが可能になっている状態で、特に、例えば伊興の事業ですとか、建物の建て替えがあったり、文化的な活動というところになると、どうしても複数年かかってやっと成果が見えるというところだと思うので、変わることを恐れずに、中長期の目線で予算を立てていただいたりとか、どうしても最初、成果が出ない指標設定になってしまうというリスクはあると思うのですけれども、それでも３年、５年かけて達成していくというふうな指標の立て方を期待したいなと思いました。

２点目としては、データの活用等、リソースも有限だと思うので、効果的な分配というところを考えていただけたらなと思っていまして、例えば選挙の投票率の促進のところでいくと、区内全部に同じ取組をやるというのは恐らくリソース上難しいだろうというところもあったので、特定のエリアに効果的に狙い撃ちをしてやっていくことに対して批判もあるとは思うのですけれども、ちょっと勇気を持ってそこをやっていただくことが重要なんじゃないかなと感じました。

最後、次年度というか、私も２年目で、来年も関わらせていただければと思うのですけれども、今回、委員の中に 20 代の方もいらっしゃって、ぜひ、今年、「子ども・若者計画」も策定されたかと思いますので、10 代の委員の方ができれば来年入っていただけるといいなとか、将来世代に向けてかなり積極的に区政を運営されていると思うので、それをぜひ委員の中にも反映いただけたらうれしいなと思っております。

今回はありがとうございました。

○鈴木政策経営課長　ありがとうございました。

石田先生、お願いいたします。

○石田委員　一般事務事業を担当しております石田と申します。

我々が担当した事業、どれも意義深いなと思う一方で、これをやって結局区民がどれだけ幸せになれるのかというふうな、効果を検証するというところがやはり弱いなと感じました。もちろん、データを取れるところもあったりするのですけれども、なかなかそのデータを使ってこの施策をやって、こういう効果が出ましたというふうなところまではなかなか至っていないというふうなところです。

現状は、最近、税収も好調で、多分、区税も財調交付金も結構増えていて、何も考えなくてもできるとは思うのです、今の状況であれば。ただ、いずれこの状況というのは反転して、財源もなくなっていく中で、どこか撤退しなきゃいけないと。そのときに合理的に説明できるようになるためには、やはりＥＢＰＭをしっかり推進していく必要があるだろうなと思います。職員の方は非常に頑張られていて、これは重要なんだというふうな説明を頂くのですけれども、やはりそういうところをもうちょっと数値化していただければいいなと思っております。

以上です。どうもありがとうございました。

○鈴木政策経営課長　改めまして、委員の皆様、ありがとうございました。

ただいま皆様から様々なご意見、ご感想を頂きましたので、区側からのコメントをさせていただきたいと思いますので、区長のほうからお願いいたします。

○近藤区長　複数の委員の方から出ていた、やめるときの、撤退の考え方です。実際に、始めるよりやめることのほうが難しいというのはあります。特に今何が難しいといいますと、議会のほう。今、足立区議会、45 名いらっしゃいますけれども、会派を持たない無所属の議員さんもいらっしゃったり、また、今、国会でもいろいろ名前の出るような新しい会派の先生方が出てきている中で、本当にいろいろな考えの方々がいらっしゃる。かつてのように、いわゆる自民党・公明党、都民ファースト、与党というふうに言われていますけれども、その中でも、自民党としてもなかなか会派で一本にまとまり切れないという状況がある中で、撤退という形で何か事業を出したときに、非常に議会からの反発もある。

そしてまた、うれしいことに、うちは「区民の声」というのがあって、これも今、コロナのとき以上に、全く特別な何かポイント、これだというような一つの案件があるわけではないのですけれども、広く非常に増えておりまして、コロナのとき以上に年間の区民の声が上ってきそうなのです。ですから、本当に一区民の皆さん方が、今までででしたらこういう内容は区に届かなかったみたいな内容の声が、本当に細かいことまで含めて届くようになってきています。

そうした中で、撤退についても、ＥＢＰＭはあるのですけれども、価値観が多様しているのだから、お金がかかるからといってやめていいのかみたいなこともありますので、非常に評価の皆様方にも力を頂きながら、そうはいっても、限られた財源をどのように切り分けていくかという点は本当に重要だと思いますので、私たちもまた今回の評価をいただきながら、一つ一つ考えていきたいと思います。

そうはいっても、多分、関わっている職員はプライドもありますし、ということで十分な説明がなかったのかもわかりませんけれども、確かに中長期的な点と短期的な成果というところのバランスですとか、じゃあ実際に中長期的というのはいつまでにどういう成果を出していくのか、それから振り返ったときに今何をしておかなきゃいけないのかみたいなことが説明できればまた違うんだと思うのですけれども、その辺のところも力をつけてまいりたいと思っています。

今年の決算、いよいよ出まして、10 月ですかね、決算委員会がございますけれども、経常収支比率というのがあって、これは区政の弾力性を示す数字なのですけれども、80%以下が好ましいと言われていまして、ここのところずっと 80%を下回ってきたのですけれども、今回 80.8 ということで、僅かではありますけれども 80 を超えました。この１%、大体 20 億ということですので、0.8 ですから 20 億弱ぐらい出てしまったということなのですけれども、これだけ区民税も過去最高、財調も順調に右肩上がりで伸びてきているという、歳入がこれだけ豊かだったにもかかわらず 80%を超えてしまったということ。

一方で、借金も返しています。そして基金も積み上げてきているということで、全く財政が硬直化して、手も足も出なくなってしまっているというような状況ではないということで、誤解は避けていきたいと思いますけれども、そうはいっても、80 を超えたということは、これからの硬直化の兆候が、一つ黄色信号がともったという認識の中で、９年度の予算の査定に当たっては、さらに、先ほど申し上げた、切るものは切る、そして何か新しいものをやるときには、きちっと今までのものを検証して、変えるものは変えていく、予算をきちっと組み替えていくというような、より厳しい査定が必要だなと思っておりますので、そうしたときに、先生方にいただいた評価の内容をきちっとそれぞれの所管に示して、さらなる検討を深めていきたいなと考えております。

そうはいいましても、区民の皆様方から幅広く様々なご要望が出ております。足立区の基本計画の最上位にあります「やりたいことが叶うまち」

を通じて、区民お一人お一人のウェルビーイングをどれだけ高めていけるかということが今区政に一番問われているところでございますので、様々な厳しさはいろいろございますけれども、職員も今回皆様方からご評価いただけて、そして、それなりに頑張っているねというご評価もいただいたということで、さらにやりがいを持って進んでくれるものと思っておりますので、これからもぜひよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

○鈴木政策経営課長　藤後会長からもコメントいただいてもよろしいでしょうか。

○藤後会長　ありがとうございます。

まず、この場を借りて御礼を申し上げたいと思います。１年間、委員の皆様、そして政策経営課の皆様、そして財政課の皆様も本当に多大なる御尽力をいただきどうもありがとうございました。

先ほどから厳しくも温かいお言葉をいっぱい頂いたと思うのです。それほど皆さん方、足立区のことをしっかり考えてくださっている証拠だと思います。

私からも気づいた点を２点ほどお話しさせていただきます。１点目は、この区民評価自体ですけれども、私は本当にこの区民評価は大好きで、区民評価の意義というものを実感しているのです。ただ、前回の検討委員会でも議論されましたが、なかなか区民の皆様方にこの区民評価が伝わっていないのではないかということです。中村委員からご助言案を頂いたのですけれども、ぜひ特集号か何かで一度区民評価を取り上げてみてもいいのではないかというお話を頂きましたので、ぜひ一度ご検討いただければとは思っております。

また、広報という面で情報共有したいのですけれども、実は私、昨日までフィンランドにいたんです。昨年度お願いした件ですが、ヒアリングのときに使っている資料を皆さんに共有してほしいというお話をさせていただいたら、それをホームページからダウンロードできるように今なっています。ですので、今回、フィンランドに行って、いろいろな方々とお話しするときに、足立区の施策を説明できたんです、例えばHP上の資料をダウンロードして、それをＡＩにかけるとすぐ英語にできますので、資料をお見せながら説明しました。例えば若者支援に関しても、フィンランドでやっていることと足立区でやっていることの中には結構類似する点もございますし、問題も似ていたりもするのです。ですので、ある意味、国内だけの発信ではなくて、今後は国際的な発信も含めて検討できる時代に入ったのではないかというふうにも思っています。

とはいうものの、庁内の職員の方々がどれくらいお互いの施策を認識しているかという点は検討の余地があります。すなわち、先ほどの所管の横串という話が出ました。例えば私もいろいろな立場で足立区に関わることがございます。例えば不登校とひきこもりというと、かなり近接な領域であったりもするのですけれども、お互いの新しい施策のことを知らなかったり、「あっ、今こんなことやっていたの？」というようなことが日常の会話の中で出てきたりというようなことがございましたので、ぜひ所管の中でお互いの情報交換の機会も推進していただければと思っております。

１年間どうもありがとうございました。

○鈴木政策経営課長　藤後会長、ありがとうございました。

それでは、意見交換の時間を終了させていただきたいと思います。貴重なご意見、ご提言を頂きまして、ありがとうございました。

以上をもちまして本日の意見交換会は終了となります。

最後に、隣の部屋で区長との記念撮影を行わせていただきたいと思いますので、会場のほうを移らせていただきたいと思います。事務局職員が誘導いたしますので、委員の皆様は、あちらで職員

が手を挙げておりますので、あちらから隣のお部屋に移っていただければと思います。お荷物なのですけれども、事務局職員がこの部屋に残りますので、そのまま置いておいて構いませんので、ご移動をお願いいたします。